大久保利通公遭難實録

槇口千賀子刀自談

（刀自は黒田清綱子爵の長女にして槇口文藏氏に嫁し夫君歿後長子兼清氏と共に鎌倉に餘生を送られる方にして齢八十古稀）

大久保さんの遭難されましたのはもう大分古い事ですし、私ゝ位の年齢のので委しい事は憶えて居りませんが何しろ大変なことでした。

善鄰書院原
早稲田大学図書館
文書27
D 58

たしか明治十一年頃でしたでせうか、私の二十歳位の時であったと思ひます。槁口へ嫁入ってから翌年良人がアメリカへ洋行しましたので、其の留守中實家へ客に行って居た時の事でした。

遭難の場所は丁度今の清水谷公園の大久保さんの碑の前辺りの往来でした。あの辺はとても淋しい所でした。今の公園の処は紀州家の伊長屋が沢山並んでゐました。そして其辺

善鄰書院原稿用紙

は一面桑畑でした。黒田の家は高台でしたから今の公園の辺はずっと見渡せたのです。今山内さんのお邸になっている処です

其の日の朝、父は市役所へ出かける支度で馬車が玄関に付いている時分でした。父が風呂から出て着物を着ている処へ、家扶が遽て馳け込むで来まして「今喰違いの通りで馬車の馬が斬り倒され、馬車が倒れて乗っていた人と斬られました」と知らせたのです。

善鄰書院原稿用紙

父は喫驚して「それは大変だ。大久保に違い
ない、今頃馬車でそこを通るのは大久保より
他にない」と申しまして、急いで庭先の土手
の処へ行って見ました。私も皆と一緒に土手
から見たのです。

馬車が倒れてゐて其の側に三つ黒いものが
見えました。それは大久保さん と馭者と馬が
一匹斬られて倒れてゐたのです。そして其の
側に巡査のやうな人が二人立つてゐるだけで
他には誰も居ません でした。

善鄰書院原稿用紙

家扶が土手で草を取ってゐて斬られたのを見て、急いで知らせたので、あまり時間が経つてゐたかったのでまだ人が来て居ないたのです。馬丁が二人居たさうですが、一人は赤坂の市所へ一人は大久保さんのお邸へ知らせに行ったのださうです。

其の内に喰違いの方から大久保さんの家の人達が大勢馳け付けて来ました。薬箱を持って馳け付けた人も居ました。又市所の方からも大勢の人が来ました。馬車と馬丁も沢山来

善鄰書院原稿用紙

十行 二十字詰

ました。其の内に兵隊も沢山やって来て大変騒ぎでした。私は戦争はきっとこんなものだろうと思いながら見てゐました。大久保さんも、太郎といふ取者も兵もズタ〳〵に斬られて死んで居られたさうです。

市所から持って来た毛布で大久保さんの躰を包むで、市郎の馬車でお邸の方へ運むでゆきましたが毛布から血がポタ〳〵垂れてゐました。

倒れた馬は大勢の馬丁が擔いでゆきましたが、もう一匹の馬は跛をひきながら引かれて

善鄰書院原稿用紙

ゆきました。

其の時見たので憶えてゐるのは其の位のことですか本當にお気の毒なことでした。遭難の知らせを受けた時に大久保さんの奥さんは驚いて気絶されたさうですよ。

父は市役所へ出るのを止めて直ぐに永田町の大久保さんのお屋敷へ市見舞いに行ったのですが、すぐに市目にかゝる事が出来ず、しばらく市待ちして遺骸の疵の処へ、生きてゐる人にするやうにすっかり繃帯を巻いて、安

善鄰書院原稿用紙

置されてからお目にかゝったさうです。

市葬式の時は大久保さんの市棺と、取者と

厚の棺と市棺が三つ續いてゐましたが、私は

あのやうな市棺が三つも並んでゆく市葬式を

見たのは始めてでした。

千賀子力自は偉人大久保利通公の遭難を悼

む心も新たに面に浮べつゝ、古十餘年前の遭難

現場の目擊を追懐されつゝ、斯く語られたので

善鄰書院原稿用紙

十行　二十字詰

九

あります。

乃自の令息にして友人樋口兼清氏より母堂加大久保公遭難現場を目撃せられし由を聞知し、昭和十八年二月十四日鎌倉の邸を訪問し乃自より親しく目撃談を拝聽し得たのであります。（文責在筆者）

昭和十八年二月十六日

於善鄰書院　田口丈輔記

善鄰書院原稿用紙

十行　二十字詰

樺口家近代家系並鎮海觀音會トノ關係

- 兼三
  - 傳藏（寺田屋ニテ横死ス）
    - 勇馬（陸軍少將）
      - 直右衛門（仁川領事）
  - 覺之進（後ノ樺山資紀氏）
  - 助
  - 文藏（妻千賀子）
    - 兼清

○樺山資紀大將ハ鎮海觀音會ニ多大ノ援助ヲ與ヘテレ、會ノ庫ニ「施無畏」ノ文字ハ樺山大將ノ揮毫サレシ、德丸寺ノ寶物トナス。

○直右衛門氏ハ漢口領事時代、宮島隊長ト交通アリ、觀音會ニ書簡ヲ寄セラレタルコトアリ。

○勇馬氏ハ宮島隊長ト交通アリ、觀音會ニ寄セラレタル人ナリ

○兼清氏現ニ鎮海觀音會會員タリ。

善鄰書院原稿用紙

十行　二十字詰